



おおぞらだより

第12号
平成26年 1月 31 日発行
社会福祉法人兵庫県社会福祉事業団
おおぞらのいえ
〒651-2181
神戸市西区曙町1070
TEL (078) 927-2727 (代)
FAX (078) 925-9253



2014年を迎えて

障害児入所施設 おおぞらのいえ

療育指導課長 谷川 久美子

新年を迎えましたが、例年にない寒さが続いております。

新年にはおおぞらのいえにも写真がプリントされた年賀状や、かつての利用児童の保護者から近況を書き添えた年賀状が届きました。このような年賀状をいただけることに喜びを感じるとともに、施設に対しての期待や私達職員の責務を感じ、背筋の伸びる思いがします。

「馬にはのつてみよ。人には添うてみよ。」ということわざのように、これまでの実践で得た貴重な経験を利用児の療育に活かし、保護者や地域から更に信頼を得られるよう、スタッフ一同新たな決意をもって平成26年度に望みたいと思います。

近年、社会構造やライフスタイルの変化等により、こども達を取り巻く状況が大きく変化しています。児童福祉においてもその変化に対応したサービス提供が求められています。

おおぞらのいえは今後もこどもの人権に配慮し、個性を尊重した支援を行うとともに、施設機能の充実を図ってまいります。そのためにこれまで以上に神戸市、明石市、こども家庭センター等関係機関や専門機関との連携を深めていけるように努力します。さらに、当施設を取り巻く総合リハビリテーションセンターの機能を活かした療育に取り組み、質の高いサービスの提供に努力してまいります。

先日ある保護者から「こちらと縁があり出会えたことに感謝しています。」と声を掛けていただきました。このような信頼の絆を多くの方と築いていけるよう、スタッフ一丸となりできる限りの支援を尽くしていきたいと思っております。今後ともよろしく願います。

『笑顔いっぱい季節の行事』

支援員 中尾 有里佳

おおよそのいえ児童発達支援事業所は今年の5月で、開設6年目を迎えます。当事業所は季節に合わせて様々な行事を行っていますので、ご紹介します。

11月は『おおよらうんどうかい』を行いました。『おおきなそらに1、2のジャンプ!!』というスローガンの下、歌や体操、かけっこやグループ競技を行いました。普段とは違う環境に戸惑っているお子さんもありましたが、自分の順番が来るとスタートラインに立ち、元気良くゴールすることができました。閉会式では、メダルを首に掛け、みんなとても良い表情をしていました。

12月はクリスマス会がありました。『あわてんぼうのサンタクロース』の曲を、ピアノに合わせてカスタネットや鈴を鳴らし、元気いっぱい歌いました。運動会の時よりも、堂々と歌っているお子さんの姿に成長を感じました。サンタクロースの登場には歓声があがり、頭を撫でてもらったり、握手をして大満足。ちよっぴりビックリしてお母さんの後ろに隠れるお子さんもありましたが、サンタクロースからもらったプレゼントに笑顔を見せ、自由時間にはみんな楽しく遊びました。

お子さんにとって、行事は楽しみの一つでもあります。いつもとは違う雰囲気戸惑いを感じることもあります。「やりたいけど、できない。」という思いや、不安な気持ちを受け止めながら、少しずつ経験を積み、次の機会に繋がる場となればと思います。これからもお子さんの成長が見えたり、親子一緒に楽しんで頂ける行事を計画し、より良い事業運営に繋げて行きたいと思っています。



『プロ選手と楽しく交流』 (ヴィッセル神戸・兵庫ストークス)

支援員 石美 樹梨

6月26日(水)にスポーツ交流館にて、プロバスケットボールチーム「兵庫ストークス」との交流を行いました。ドリブルやパス、シュートを教えてもらいました。チーム対抗で行ったシュート競争は子ども達も必死に頑張っていました。

7月15日(月) おおぞらのいえにヴィッセル神戸の選手が来所しました。子ども達が生活している場所を見学してもらい、その後交流しました。選手に質問したり、一緒に連想ゲームを楽しんだり、ドリブルやパスと一緒に練習しました。

あこがれのプロ選手に出会い、一緒に練習したことは、子ども達にとって、大きな刺激となりました。今でもドリブルやパスの練習に励み、『夢はサッカー選手になること!』と話す子どももいます。



『涙あり、笑いありの外出活動』(USSJ)

支援員 熊原 知子

正月恒例の外出活動で、今回は念願のUSSJに行きました。USSJに到着すると、人の多さやツリーの大きさに圧倒されました。アトラクションでは、「怖い!」「降りる!」と言う児童もいましたが、帰りの車内では「あの時びっくりしたけど、楽しかった。」「やっぱりみんなで行くと楽しいね。」と盛り上がっていました。アトラクション以外にもパレードを見たり、キャラクターと触れ合ったり、普段味わえない事を体験できました。帰る頃には職員はヘトヘトでしたが、子ども達の喜ぶ姿を見れたので大満足です。次の外出活動も、子ども達の思い出に残るような計画にしたいです。



※写真の掲載については、保護者の承諾を得ています。

『ルミナリエ』

支援員 石美 樹梨

昨年の12月3日にルミナリエのハートフルデイがあり、行って来ました。道中は、明石海峡大橋や海の風景に歓声をあげながらのドライブでした。三宮に着くと大きなビルや道路、車の多さに圧倒されながらもまずは、子ども達が相談して決めた『餃子の王将』へ行き、夕食を食べました。ルミナリエ会場の東遊園地まで、幅の狭い歩道に悪戦苦闘しながら進みました。ルミナリエの光を目の前にした子ども達は、消灯するまで見つめていました。帰り道でも興奮冷めず、話は尽きませんでした。



『ご寄贈をいただきました』

小林謙一様より『作業用テーブル』

を寄贈いただきました。作業用テーブルは、食事や宿題をする時、余暇の時間などに使わせていただいています。高さ調節ができるため、子ども達の成長に合わせて、長く大事に使わせていただきたいと思います。本当にありがとうございます。



『職員の趣味紹介コーナー』

支援員 昆野 成子

私は、『トロッケンゲビンテ』という乾燥した木の実や草の実を使った、ドイツ装花作りを楽しんでいます。外に出て木の实を見つけると、制作意欲が湧いてくる日々です。



支援員 松本 優紀

私の趣味は、アウトドアスポーツです。毎年、夏は吉野川にラフティング、冬は信州にスノーボードに行っています。その他、昨年はシーカヤックやパラグライダーにも挑戦しました。まだまだ楽しいアウトドアスポーツを開拓していきたいので、皆さんのおすすめがあれば、ぜひ教えてください！



『編集後記』

『おおぞらだより』も今回で第12号となりました。2013年もあっという間に1年が過ぎていきました。児童発達支援事業は、一層にぎやかな笑い声が響いています。2階は、今年は新しい取り組みとして、体育館で行われているスポーツ教室への参加、リハビリ室への行き帰りを一人で行うことを実施しています。一人で外出できるように日々頑張っています。今後も、子どもたちの頑張りや成長を皆様にお届けしていきます。次回の『おおぞらだより』もお楽しみにお待ちしております。